

1 本年度の重点目標

1 安全・安心な学校の徹底	4 自主性・自立性の伸長と規律ある生活態度の育成
2 生徒主役型授業の実践と学習習慣の確立	5 組織として機能するチーム岩高の確立
3 進路意識の高揚と進路指導の充実	6 開かれた学校づくりの推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※自己評価結果… A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない  
※自己評価、改善策の適切さ… A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である

分 野 価	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価 結果	改善の方策	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
指 導 学 習	① 学力向上の授業について	A	義務教育段階の学び直し、基礎・基本の定着を図る繰り返し学習、生徒の集中力やコミュニケーション能力を伸ばすICTの利活用、生徒の興味・関心を引き出す教材の工夫にさらに取り組み、「わかる授業」を目指す。また、家庭学習の習慣化にも一層努める。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		3学年保護者から、学習面での評価が伸びたことはすばらしい。「わかる授業」づくりを今後ともお願いしたい。学校独自項目の「家庭学習習慣」に対する職員の評価が否定的評価が多く、家庭学習習慣のない生徒へのさらなる対応をお願いしたい。			
生 徒 指 導	① 基本的な生活習慣の指導について	B	毎朝の挨拶運動や容儀指導等に、今後も組織的かつ粘り強く取り組んでいく。	B	B
	② 教育相談について	B	誰でも気軽に相談できる体制づくりをさらに推し進める。	B	B
	③ 部活動について	C	部活数の調整や顧問の配置の見直し、さらには入学期における部活動加入の推進等、活性化を図る。	B	B
	④ 生徒会活動について	B	朝の挨拶運動等の自主的な活動を促し、前年度各行事の反省点を的確に反映させ、早期に計画立案を行う。	B	A
	⑤ いじめの早期発見について	B	きめ細やかな個別的組織的対応を継続するとともに、全体への働きかけや必要に応じて保護者への情報提供も行う。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		容儀指導の徹底をお願いしたい。部活動において、県平均と比較すると生徒の評価が低いのが目立つ。活性化への取組をお願いしたい。またコロナ禍の中、新しい動きにも注意していただきたい。			
指 導 路	① 進路目標の指導について	B	今後も、担任や学年と連携しきめ細やかな指導を徹底する。また、進路だよりや保護者（特に3学年）対象の説明会を活用しながら、生徒・保護者の理解を深めたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		3学年保護者から、進路指導において高評価が得られており、職員の指導の結果と察する。1学年時から、さらなる進路相談の機会を設けていただきたい。			
特 色 校 あ	① 有意義な学校行事について	B	政宗公まつりや食楽まつり等の地域貢献活動、OB等リレー講座、地域探訪や職場体験学習等の総合的学習、岩高短歌やみやぎの文学等、独創的な取り組みについて、生徒の実態の変化に対応し、改善を加えながら今後も継続して行う。	B	B
	② 特色ある学校づくりについて	A		A	B
学校関係者評価委員会における意見		新型コロナウイルスの影響により、鳴子食楽まつりの開催時期が次年度は大きく変更となる予定だが、例年同様、高校生の若い力による協力を大いに期待している。その他の地域連携行事についても、コロナ禍の現状に対応しながら、継続ができるようにと願う。			
防 災 教 育	① 災害時の避難・連絡について	A	今後も防災家庭用リーフレットや引き渡しカードを全家庭に配付し、eメッセージの全員登録を推進し、緊急時に対応できる態勢づくりに努める。また、授業時以外の防災訓練や『みやぎ防災教育副読本』による学習計画を立て、継続的系統的に実施し、防災意識と正しい知識の定着を図る。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		保護者・生徒ともに評価は伸びている。震災から10年、生徒が主体的に考えることも大切である。			
開 か れ た 学 校	① 学校の情報について	A	eメッセージによる連絡を初め、「校長だより」と学校だより「ひょうたん池」の定期的な発行やその他の学校発行物の全家庭への郵送、ホームページの迅速な情報更新等の取り組みを今後も推進する。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		保護者の高評価の通り、よく行き届いていると思われる。県との調整等もあると思うが、行事等の中止・縮小の判断は早めをお願いしたい。岩出山小学校での「読み聞かせ」等も、取組と同時に発信してよいと思われる。			
施 備 設 置	① 校舎等の施設設備について	B	施設の老朽化が進み、生徒の安全確保のための修繕等が優先となるが、今後も計画的な施設設備の改修に努力を続けるとともに、急を要する修繕等には速やかに対応していく。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		県平均に対して、生徒の評価はかなり劣っている。県教育委員会への継続的な要望とともに、校内でできることは実践してほしい。（例えばゴミの持ち帰りやゴミ捨てゼロ等）			

3 次年度の課題と改善方策

	次年度の課題	改善方策
①	学習指導の充実	生徒が興味・関心を持てるような教材の工夫に努めることで、「わかる授業」の展開に結びつけ、生徒の学習習慣や学習意識の醸成につなげたい。また、早期の進路目標の明確化による学習意欲の喚起と学力向上に結びつける指導を、教務部や進路指導部、学年が連携して行う。さらに、教員相互に授業を参観・検討し研鑽を深めるとともに、他校の公開授業や校外の研修・研究会に積極的に参加する。
②	進路指導の充実	これまで行ってきた進路指導や進路行事（学校・職場見学会、就業体験、進路ガイダンス、適性検査、先輩の話を開く会など）について、3年間の系統性や総合性を見通した上で整理・再検討し、学年初め生徒指導部・教務部とも連携を密にし、本校独自の進路指導体制の構築に努める。指導にあたっては、生徒の実態や志望・適性等を十分に踏まえ、必要な情報・知識を保護者も含めて適切な時期に与えながら、生徒の主体的で適切な進路選択を促すことができるように努める。
③	生徒指導（いじめ・特別支援対策も含む）の充実	全職員共通理解のもと、学校全体として組織的統一的な生徒指導を実践する。特に、個々の生徒に目を向け、関わりを大切にしながら、学年や発達段階に合わせたきめ細かな指導を実施する。服装や心構え等のマナーアップを促進し、地域から信頼される生徒の育成に力を入れる。また、精神的な安定とより充実した学校生活がいじめ防止に重要な役割を果たすと考え、まずは生徒自身の現在や将来に対する不安を取り除くように全職員が連携して指導にあたる。さらには、教育相談委員会を定期的に開催し、関係者の連携・情報の共有を密にし、より適切で組織的な対応ができる体制を構築する。